

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 米個人消費の動向は？～米小売売上高

2019年7月15日

今月30日、31日の米FOMC(連邦公開市場委員会)での利下げについて、少なくとも0.25%の利下げを実施するとの見通しは、金利市場動向からの織り込みで100%が続いていますが、一気に0.50%の引き下げもあるのではという見通しについてはかなり揺れています。

CME先物動向から計算された利下げ確率(CMEFedWatch)をみると、据え置きに終わった前回6月18日、19日のFOMC直後の0.5%の大幅利下げ見通しは、声明内容などをみて38.5%まで上昇。その後24日に最高42.6%までと、半数近いところまで期待が強まるという状況になりました。

その後は少し期待が収まり、30%前後まで数字が落ち着いた後、5日米雇用統計での非農業部門雇用者数の好結果を受けて、一気に5%前後まで低下。0.50%の大幅利下げはほぼないという印象が広がりました。

しかし、10日のパウエルFRB議長による議会証言を受けて、市場では早期かつ積極的な利下げへの思惑が強まり、再びの30%超えまで期待が強まる格好に。

ところが、翌11日の米消費者物価指数(CPI)において、総合の前年比の数字は予想通り弱かったものの、食品・エネルギーを除くコアの前年比が予想外に上昇したことで、再び0.50%の利下げ期待が後退し、20%前後となるなど不安定な動きが続いています。

FOMC本番まではこうした不安定な状況が続く可能性があります。政策金利動向に対する思惑は相場を動かす大きな材料だけに、予想を変化させるような材料には要注意。こうした状況の中、今週は16日火曜日に米国のGDPの約7割を占める重要ファクターである個人消費動向を表す6月の米小売売上高の発表が予定されています。

前回5月分の小売売上高は前月比+0.5%と、事前予想の+0.6%には届かなかったものの、4月分の+0.3%からやや改善。月毎のブレが大きい自動車を除くコアも+0.5%となっています。

項目別にみると自動車、電気製品など耐久消費財の売上げが堅調。景気がいいと強くなりがちなスポーツ・書籍・趣味商品も強く、まずまずの印象でした。

今回は全体の予想が+0.2%、自動車を除くコアの予想が+0.1%と、やや鈍いものとなっています。ガソリンの小売価格がかなりの下落(全米全種での月中平均は5月から6月で約4.8%の低下)を見せたこともあり、ガソリンスタンド売上げが減っていることが見込まれていることが全体の重石に。

(生活必需品であるガソリンは値段が下がったからといって売上げ量がその分増えるものではないので)

前月総合・自動車除くコアと同様に前月比+0.5%を記録した自動車とガソリンを除いた数字は+0.3%が見込まれています。

予想前後の数字であれば、強いとは言い難いものの、一気に0.5%の利下げ期待が強まるというほどではなく、ドル売りの動きは限定的なものが予想されます。予想をさらに

下回りマイナス圏に落ち込むようだと要注意です。

米国以外で注目の材料として、米FOMCより一足早く利下げを決定しそうな南ア中銀金融政策理事会があげられます。

昨年11月22日の理事会で、2016年3月以来2年8か月ぶりの利上げを行った南ア中銀。2018年上半期はリセッションを起こすほど景気の低迷が見られましたが、年の後半に入って経済が持ち直す中で、長期的なインフレ圧力が強まり、通貨安防衛もあって利上げに踏み切った形です。

しかし国営電力会社エスコムの経営危機もあり慢性的な電力不足に悩まされる中、今年に入って南ア景気は再び厳しくなっており、第1四半期GDPは前期比年率-3.2%と3四半期ぶりのマイナス圏に。低下度合いに至っては2009年第1四半期以来10年ぶりという厳しいものとなりました。

さらに南ア中銀には政府からの緩和圧力も強いのしかかっています。与党ANC(アフリカ民族会議)のマガジユル幹事長は、南ア中銀は物価目標だけでなく、経済成長と雇用拡大を目標にするべきとして、金融政策に圧力をかける姿勢を示しています。

こうした状況から18日の南ア中銀金融政策理事会では6.75%から6.50%への利下げが見込まれています。もっとも、据え置き見通しも一定数残っており、どちらの結果になっても相場への影響がありそうです。理事会終了後ということで時刻は確定していませんが、ほとんどの場合で22時過ぎに発表されています。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。